

学園NEWS!

前期課程のいいたて学 収穫したお米が給食に

12月11日、いいたて希望の里学園の給食に、前期課程の児童が「いいたて学」で田植えと稲刈りを行った「コシヒカリ」の新米が登場しました。この日の給食には飯館産の大根とネギ、じゅうねん(エゴマ)も使われており、ふるさとの農産物をたっぷり味わう献立でした。森永正男さん(前田・八和木)をはじめ、活動をサポートしてくださったボランティアの皆さんにも食べていただき、1~6年生全員が感謝の手紙を手渡しました。また、自分で収穫したお米を食べた感想を「すごくおいしかった」「食器よりもお米が白かった」などと発表しました。



手紙を受け取ったボランティアの皆さんも「みんなからパワーをもらいました」と感謝の言葉で応えていました。

4年生が見学学習 村の産業を学びました

12月6日、いいたて希望の里学園の4年生が見学学習を行いました。「いいたて学」の一環で、村の産業について学びます。訪れたのは、飯館村森林組合が森林再生事業を進める深谷地区の現場。機械で大きな木を切ったり、木を倒したりする作業を間近で見学しました。「何のために木を伐採するのか」「伐採した木はどこに行くのか」など興味津々の様子。森林の役割や森林組合の仕事について学習しました。また、11月30日には、有限会社濱田石材工業を見学し、石材業についても学びを深めました。



迫力満点の大きな機械を前に、真剣な眼差しでタブレットに記録したり、目に焼きつけたりする児童達。

人権作文コンテスト 山田ゆりさんが奨励賞

12月14日、いいたて希望の里学園で、「第42回全国中学生人権作文コンテスト福島県大会」の表彰伝達式が行われました。学園内の多数の応募から選抜された山田ゆりさん(8年生)の作文が、県大会で見事奨励賞に輝きました。山田さんは夏休みに作文に取り組み、幼少期の経験を通して感じたことから、人権の重要性や必要性について学んだ自身の経験を作文に書いたそうです。今回、相馬地区の1,178点の応募作品から福島県大会に進んだのはわずか6点でした。



左から、宗像邦勝福島地方務局相馬支局支局長、山田さん、亀田邦弘校長先生。

こども園NEWS!

までの里のこども園 笑顔輝く『生活発表会』

12月2日に『生活発表会』を行いました。保護者の皆さんを迎え、一人ひとりの園児が、発表を通して成長した姿を披露しました。

それぞれ野菜になりきって、個性豊かに表現しました。



つぼみ組(1歳児)の表現遊び「やさいさん」



わかば組(0歳児)の表現遊び「かわいいかくれんぼ」

家族が見守る中、お返事や楽器遊びを披露！すごいなあ。

お友達と力を合わせ笑顔いっぱい。の発表。ダンスも素敵でした。



たいよう組(3歳児)の音楽劇「おもいをどうぞ」



はな組(2歳児)の劇遊び・ダンス「3匹の虫とかいじゅう」

元氣いっぱいステージ。手作りギターかっこいいね！

さすがの連携を見せた年長さん。「タネ」の知識に会場もびっくり。



そら組(5歳児)の創作劇「ふしぎなたねやさん」



つき組(4歳児)の創作劇「おおきな さつまいも」

サツマイモを育てた経験を盛り込んだ創作劇を堂々と発表。

今回の発表会は、時間を分けて「3歳未満児の発表」と「3歳以上児の発表」を行いました。観覧も密集を避け、1家庭4人まででお願いしました。そうした状況を踏まえ、離れて暮らす祖父母の皆さんなどにもご覧いただけるよう、ウェブ会議用のアプリケーションを活用し、事前登録をしたご家庭に向けて発表会の中継を行いました。ご視聴いただいた皆様、ありがとうございました。この中継は初の試みで、実施状況を検証し今後の取り組みにつなげます。



3歳以上児全員による合奏「山の音楽家」

合奏に続き歌「ありがとうのつばい」も披露。会場は感動でいっぱい。